火打山・妙高山　山行報告

1.日時：2026 年 8 月 20 日（木）～22 日（土）
2.参加者：大沢、一之瀬、原田晴、西村
3.コースタイム：20 日（木）：町田 11：00→笹ヶ峰キャンプ場 16：30　テント泊
21 日（金）：笹ヶ峰 6：25⇒7：20 黒沢橋⇒9：45 富士見平⇒10：45 高谷池ヒュッテ（休憩）12：00⇒13：30 火打山 13：45⇒15：00 高谷池ヒュッテ

20 日　11：00 に町田駅に集合し、西村さんの車で出発。途中、渋滞に巻き込まれて予定時刻より遅くなったが、キャンプ場に到着。夕食（大沢さんの特製ラーメン）を食べ、テントで早めに就寝した。


登山口
入山料５００円

21 日　6：25　テントを撤収し、登山口に移動。入山料を払い、木道の遊歩道を進む。20 分程で遊歩道分岐に着く。ここからブナ林の中の緩い木道を登る。新緑と見間違うほど木漏れ日にブナの葉が透けて光り、朝の空気が気持ちよい。緩やかな木道と階段を進むと、沢音が聞こえてくる。1 時間ほど歩き、黒沢橋に着いた。

7：20　ここから登りがきつくなる。石ころの多い急坂を登ると、12 分の 1 と書かれた十二曲がりの登りになる。急坂を 12 分の〇の表示を励みに登る。12 分の 10 を過ぎた所より雨が降り出し、30 分程すると土砂降りになった。ダケカンバとオオシラビソの林の中、緩やかな木道や木の階段の脇をすごい勢いで茶色い水が流れ下る。大きな石の重なった急坂は、鉄砲水のように濁流が流れ、沢登りのような状況だった。雷鳴も近づいているようだった。富士見平の手前で、稲光の後すぐに雷鳴がとどろき渡り、すごい衝撃で飛び上がった。すぐ近くに落ちたと思った。樹林帯の中で良かった。雨の中、1 時間ほど登って富士見平に着いた、富士見平から樹林帯を出るので様子を見ることにした。雨の勢いも少し収まり、雷も遠ざかったので、先に進むことにした。

富士見平から黒沢岳の西側に回る。ネガマガリダケの根がはみ出し、歩きにくい道を進み、黒沢岳斜面をトラバースする。途中にアルプス展望台があったが、雨なので寄らずに進む。晴れていれば絶景が楽しめるのに・・残念。雨は小降りになり、暫くすると上がった。

10：45、びしょ濡れになり、高谷池ヒュッテに着いた。ヒュッテの方から、「天狗の庭に雷が落ちた」と聞き、先程の雷鳴はそれかと思った。少し休んでから火打山に登ることになったが、昼過ぎに雨雲が近づき天気が再び崩れると聞いた。原田さん、西村さんは火打山へ向かったが、大沢、一之瀬は先程の雷の衝撃から進む勇気がなく、ヒュッテで待つことにした。

黒沢池への分岐を左に進み、ちょっとした岩場を登ると、ロックガーデンになる。岩場を少し登ると、先程雷の落ちた天狗の庭に着いた。稜線沿いの道を登り、急な木階段を登ると、雷鳥平に着く。アルプス・御嶽以外では、ここだけに雷鳥が生息しているらしい。ハイマツの茂る長い平らな尾根を進み、肩からは、標高差 350mの最後の登りになる。階段の多いつづら折りの急登を登ると、広い火打山山頂に着く。時々晴れ間があり、日本海や北アルプス、外輪山の中の妙高山が見えた。天気の崩れも気になり、山頂はそこそこにしてヒュッテに戻った。15：00 雨に降られず、戻って来られた。


ヒュッテの名物カレー

夕食まで、多少のアルコールとコーヒー、チーズケーキをいただきながら歓談して過ごした。夕食のカレー&ハヤシはとても美味しく、おかわり自由なので、皆おかわりした。

明日に備えて早めに就寝した。



雷の落ちた　天狗の庭



勇気のある二人



火打山　山頂


外輪山の中の妙高山

（記録：一之瀬・西村　　写真：一之瀬、西村、原田晴）

22 日(土)

高谷池ヒュッテ 5:30⇒黒沢池ヒュッテ 6:45⇒大倉乗越⇒長助池分岐⇒妙高山 9:30⇒黒沢池ヒュッテ 11:00⇒富士見平⇒笹ヶ峰キャンプ場 13:30 頃

夕食後に早めに就寝したおかげで、翌朝は 3 時半頃に起床した。もぞもぞしながら身支度を整えて、少し薄暗い 5 時に高谷池ヒュッテを後にした。肝心の天気は、何とか山行出来そうな曇り空だった。もし雷雨になりそうなら引き返すと決めてだらだらとした登りと下りを辿っていく。ほどなく、黒沢池の先に黒沢池ヒュッテを見える。また、昨日に登った火打山も後方左手に見えている。
予定時間通りに黒沢池ヒュッテに到着して、これからの山行を話し合う。前日の高谷池ヒュッテのスタッフの話しでは、今日も雷雨が予想され、昨日同じような激しい雷雨なら、大倉乗越の先のトラバースは行くのが難しいということだったが、曇天ではあるものの午前中は何とかなるだろうと判断し、妙高山を目指すことにした。ただし、O さんは大事をとって、黒沢池ヒュッテで待機することになった。黒沢池ヒュッテに荷物の一部をデポして、3 人は行けるところまでということで出発する。途中に天気は徐々に良くなってきて、結局山頂を目指すことにする。
大倉乗越までは多少の登りが続き、さらに長助池分岐までは下った後に歩きにくいトラバース道を歩く。長助池分岐で小休止した後に、大きな石がゴロゴロと露出した急坂を 500m 程登る。ようやく妙高山の北峰に到着する。最高地点は南峰らしく、一人のみ南峰に向かった。天気は徐々に良くなってきて、周囲の山々(名前は良く分からない)も見えてくる。写真を撮ったりしてしばらく北峰でゆったりとした後に、3 人で下山を開始した。黒沢池ヒュッテで合流し 4 人山行に復帰して、富士見平を目指す。ここからは黒沢池を右手に眺めるゆったりとした木道が続く湿原をひたすら歩く。
富士見平に到着してから、昨日は濁流だった下山道を下る。昨日の濁流とは全く異なった様相で、水は所々に残っているだけだ。長い下りを歩き通してようやく登山口に到着した。靴を洗ったりして車に乗り込んでキャンプ場を後にした。
途中で日帰り温泉に寄ることにした。この温泉(町営の妙高高原ふれあい会館)は、火打山登山口でもらえる入山木札を提示すると 250 円で入れる。汗を流した後に、帰路についた。
とにかく往復 640 ㎞という長距離ドライブであり、長い運転で町田駅到着が 8 時半ごろになった。


遠くに見える黒沢池と黒沢ヒュッテ


富士見平に続く湿原



妙高山の山頂にて

あまり評判が良くないらしい黒沢池ヒュッテ



八方尾根～五竜岳～遠見尾根

日付：2026 年 8 月 24 日(月)夜行～26 日(水)
参加者：石井、高橋、吉江、大西、松田
8 月 25 日(火)

コースタイム：黒菱駐車場 6:32⇒7:30 八方池山荘 7:44⇒8:31 八方ケルン 8:36⇒8:47 八方池 8:58⇒9:23
休憩(Y)9:30⇒9:54 休憩 10:00⇒10:05 休憩(M)10:13⇒扇雪渓 10:22⇒11:01 休憩 11:10⇒11:50
唐松岳頂上山荘 12:14⇒12:18 休憩(サポーター装着)12:42⇒(休憩 6 回)⇒15:42 五竜山荘
☆距離：10km、累計高度(+)：1481m、累計高度(-)：512m、9 時間 13 分


不帰の嶮をバックに八方池


下ノ樺にて


牛首を下って五竜山荘への縦走

３年前と同様に、深夜バスで白馬八方バス停へ。そこから予約していたジャンボタクシーで黒菱の駐車場まで行く。リフト沿いの道を上る事１時間で八方池山荘に到着。自販機もあるので水等を補給して進むメンバーも。湿原コースを進んで第２ケルンへ。八方ケルンで白馬三山の景観を楽しみ八方池に下る。思い思いに不帰の嶮を背景に八方池での写真を撮りあう。充分にアルプスの景観を楽しんだ後、いよいよ下ノ樺の山道を上り始める、日陰で一休みをしていると吉江さんが体調不良を訴え、山を下りることになる。休憩後の上ノ樺を上っていると松田さんが足が攣って歩けなくなり、ツムラの 68 番を飲んでも治らず、続いて山を下りる事になった。まだ雪が残っている扇雪渓を左に見ながら丸山ケルンを右に見て稜線上に出る。ここからの不帰の嶮の眺めは素晴らしい。この後上りの歩みが苦しくなる。段差を上る時足を上げるのが非常に苦しく、腿がピクピク息も荒くなるが、何とか唐松岳頂上山荘に着く。西に見えるはずの剱岳はガスの中。昼食をとっていると左足の内転筋が攣る。かなり激しい痛みなので、68 番とロキソニンを飲む。誰からも唐松岳の頂上を踏もうという意見が出なかったので、五竜岳への稜線へ進む。進み始めて５分も立たないうちに今度は右足の内転筋が激しく攣る。68 番が効かないのだ。登山道の真ん中で大西さんから内転筋のサポーターを借り、その上に自分のスポーツタイツを履く。牛首の岩稜帯を内転筋が攣らない様に慎重にそろそろと下る。この後五竜山荘までの道は腿に力が入ってしまうと攣ってしまう状態が続き何度も休むことになる。白岳の長い上りの先に遠見尾根との分岐の標識が見えた時はほっとした。ガスの中、五竜山荘に下る。

五竜山荘は一昨年食堂、昨年客室、今年はトイレ等を改築していているので非常にきれい。蚕棚の客室にはコンセントの他に上部に充電用のポートと携帯等を置いておける棚があり、まだ緑色の畳に、トイレはウォシュレットである。予想通りこの時期の平日なので蚕棚の 2 階はほとんど空。2 人がキャンセルした事もあり、我々の 4 人用の蚕棚の下の部屋は天井が低い以外は快適だった。朝食の代わりの弁当は白身魚のフライに大きな梅干し他のおかずがのった混ぜ寿司でお勧めの弁当。それに比べ夕食の大き目のソーセージが一本入ったカレーライスは、量は多かったが残念であった。夕食前に３人で相談し、明日以降の悪天候予想を考えて、翌朝五竜岳を往復した後、遠見尾根を下る事にした。３回目の五竜岳から八峰キレットを越えて鹿島槍の計画はまたしても果たせなくなった。

夕食時に同じテーブルに座った町田などから来たテニス仲間の女性三人組が、冷池山荘からいつ危険な所が来るのかと思っている内に着いてしまったと言うのにはまいった。雪稜会の名刺を渡して説明していると、沢歩きはやるのか？雪稜という名前だから雪山は？山スキーはやらないの？というような質問を受けた。年齢的には若い人もいたので山に興味を持っているこのような人に入ってもらえたらなと思った。（記録＆写真:石井）

８月２６日（水）

行程：五竜山荘 4:55⇒五竜岳 5:55⇒五竜山荘 7:00

五竜山荘 8:15⇒西遠見ノ池 10:55⇒小遠見山分岐 12:40⇒アルプス平駅 13:10

27 日、28 日はひどい悪天候の予報のため鹿島槍登頂は諦めて、五竜岳登頂後、遠見尾根を下山することに行程を変更した。



朝に出発するときは、山荘付近は強風。頂上は、もっと強風ではないかと不安になる。吹き飛ばされそうになったらやめようという覚悟で進む。時々、低姿勢になりながらもまだ行ける、まだ行けると登って行くうちに風は幾分弱まった。「これくらいの風、大丈夫だ」と初めから言っていた石井さんの言う通りであった。さすが経験者は違うと思った。岩稜帯はホールドも足場もしっかりしていて問題なかった。頂上では 360 度の展望で、素晴らしい景色を堪能した。

山荘に戻り、朝食の弁当を食べて体調を整えてから下山を開始した。遠見尾根の上部にある岩稜帯は、気を付けて降りれば大丈夫だった。途中、西遠見池を通ったが、池に五竜岳を映すことができ、良い景色の所だった。平凡な尾根道かと思っていたが、間近に五竜岳を見ながら降りられる素敵なルートだった。小遠見山からは、花崗岩質なのか、山道が白くなって、感じが良かった。どんどん下っていったが、その分五竜岳や唐松岳と離れてしまって、ついには見えなくなってしまい、山行が終わる寂しさを感じた。



ゴールのアルプス平駅は五竜アルプス山野草園を通っていく。いろいろな高山植物が植えてあった。驚いたことに、岩が敷き詰められた花壇にコマクサが植えられていた。高山植物の観察にはうってつけの場所だったが、横浜からは遠すぎた。五竜テレキャビンで降りた山麓のとおみ駅は、長野駅や神城駅にバスの出ている便利な所だった。神城駅には徒歩でも 20 分程だそうだ。遠見尾根、アクセスも良くお勧めなコースだ。

（記録：高橋　写真：石井・高橋）

【深夜バスで早朝八方に着いた時には、一週間前に患った熱中症の症状、頭痛と微熱、倦怠感がまた現れた。行くか止めるか迷ったが、せっかくここまで来たのだからと唐松岳まで行こうと自分に言い聞かせて出発した。しかし八方池辺りが限界で、下山の余力を残して一人リタイアを決めた。

メンバーを見送った後、1 人で八方池で長い休憩を取った。池の上部から、右手には白馬、杓子岳、白馬槍の白馬三山が見事な姿を現し、左手には五竜岳から鹿島槍ヶ岳が堂々とそびえて居る。

結局このルートは 3 度目の挑戦でも行くことが出来なかったが、ここからの景色は絶景で、心ゆくまで堪能した。これからは、こんな風にゆっくり景色を堪能するのんびり山行も良いのかな、などと考えながらリフトとゴンドラを乗り継ぎながら下山した。】

（記録：吉江）

【秋からは忙しくなり、山行も縦走などはもう無理かもと挑んだ八峰でしたが、これが限界なのかと言う思いもあります。今まで色々な山へも行き、自分としては満足のいく山行経験が残り思い残すことは無いなと言う感想です。今後は時間が許す限り日帰り山行に参加させて頂こうと考えています。大好きな北アルプスへ行かれたことは途中リタイアでも楽しかったです。皆さま有難うございました。縦走いいよねー】　（記録：松田）